

足柄上病院 外科専門医研修カリキュラム

<p>研修目的</p>	<p>初期研修を修了した医師が、更に専門的な外科分野に関する診療能力を習得し、神奈川県 of 医療を担う専門医の育成を目的とする。</p>						
<p>研修目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 初期臨床研修で習得した知識と技術をもとに、外科専門医としてのより深い臨床能力を習得する。 2 日本外科学会が認定する外科専門医資格の習得を目指す。 3 臨床データの解析と学会での発表および論文の作成。 4 外科サブスペシャリティに共通する外科の基本的問題解決に必要な基礎知識、技能および態度を習得する。 5 上記を通じ、外科専門医としての適切な臨床的判断能力と問題解決能力を習得する。 						
<p>年度別到達目標</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">1 年 目 到 達 目 標</td> <td style="padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 初期臨床研修に引き続き、より多くの症例を経験することにより、外科全般の知識・技能・態度をより深く身につけ、更にサブスペシャリティ分野で役立つ知識・技術を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> a 局所解剖 b 病理学 c 腫瘍学 d 輸液、輸血 e 血液凝固と線溶現象 f 栄養・代謝学 g 感染症 h 免疫学 I 創傷治癒 j 麻酔学 k 救急・救命医療 2 初期臨床研修に引き続き外科系のプライマリーケアを習得する。 3 外科専門医資格取得に必要な疾患・手術を経験する(心血管外科を除く)。 4 外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技に習熟し、それらの臨床応用が出来る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各種検査の適応を決定し、結果を解釈できる。 (2) 周術期管理が出来る。 (3) 外傷の診断・治療が出来る (4) 外科的クリティカルケアができる。 (5) 学会での発表・論文の作成。 </td> </tr> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">2 年 目 到 達 目 標</td> <td style="padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 2年目、3年目の2年間のうちに心血管外科(循環器呼吸器病センター)を3ヶ月以上ローテートし、心血管外科疾患及び手術を経験する。 2 後期研修修了後の外科サブスペシャリティを目指し、心臓血管外科3ヶ月を含み、希望により以下の施設で研修を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 足柄上病院 : 一般外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺・甲状腺外科 こども医療センター: 小児外科、小児心血管外科 がんセンター : 消化器外科(食道・胃・大腸・肝胆膵)、呼吸器外科、乳腺甲状腺外科 循環器呼吸器病センター: 呼吸器外科、心・血管外科 3 学会活動や論文作成について積極的に行い、専門医取得を目指す。 </td> </tr> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">3 年 目 到 達 目 標</td> <td style="padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">同 上</p> </td> </tr> </table>	1 年 目 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 初期臨床研修に引き続き、より多くの症例を経験することにより、外科全般の知識・技能・態度をより深く身につけ、更にサブスペシャリティ分野で役立つ知識・技術を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> a 局所解剖 b 病理学 c 腫瘍学 d 輸液、輸血 e 血液凝固と線溶現象 f 栄養・代謝学 g 感染症 h 免疫学 I 創傷治癒 j 麻酔学 k 救急・救命医療 2 初期臨床研修に引き続き外科系のプライマリーケアを習得する。 3 外科専門医資格取得に必要な疾患・手術を経験する(心血管外科を除く)。 4 外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技に習熟し、それらの臨床応用が出来る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各種検査の適応を決定し、結果を解釈できる。 (2) 周術期管理が出来る。 (3) 外傷の診断・治療が出来る (4) 外科的クリティカルケアができる。 (5) 学会での発表・論文の作成。 	2 年 目 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 2年目、3年目の2年間のうちに心血管外科(循環器呼吸器病センター)を3ヶ月以上ローテートし、心血管外科疾患及び手術を経験する。 2 後期研修修了後の外科サブスペシャリティを目指し、心臓血管外科3ヶ月を含み、希望により以下の施設で研修を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 足柄上病院 : 一般外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺・甲状腺外科 こども医療センター: 小児外科、小児心血管外科 がんセンター : 消化器外科(食道・胃・大腸・肝胆膵)、呼吸器外科、乳腺甲状腺外科 循環器呼吸器病センター: 呼吸器外科、心・血管外科 3 学会活動や論文作成について積極的に行い、専門医取得を目指す。 	3 年 目 到 達 目 標	<p style="text-align: center;">同 上</p>
1 年 目 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 初期臨床研修に引き続き、より多くの症例を経験することにより、外科全般の知識・技能・態度をより深く身につけ、更にサブスペシャリティ分野で役立つ知識・技術を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> a 局所解剖 b 病理学 c 腫瘍学 d 輸液、輸血 e 血液凝固と線溶現象 f 栄養・代謝学 g 感染症 h 免疫学 I 創傷治癒 j 麻酔学 k 救急・救命医療 2 初期臨床研修に引き続き外科系のプライマリーケアを習得する。 3 外科専門医資格取得に必要な疾患・手術を経験する(心血管外科を除く)。 4 外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技に習熟し、それらの臨床応用が出来る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各種検査の適応を決定し、結果を解釈できる。 (2) 周術期管理が出来る。 (3) 外傷の診断・治療が出来る (4) 外科的クリティカルケアができる。 (5) 学会での発表・論文の作成。 						
2 年 目 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 2年目、3年目の2年間のうちに心血管外科(循環器呼吸器病センター)を3ヶ月以上ローテートし、心血管外科疾患及び手術を経験する。 2 後期研修修了後の外科サブスペシャリティを目指し、心臓血管外科3ヶ月を含み、希望により以下の施設で研修を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 足柄上病院 : 一般外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺・甲状腺外科 こども医療センター: 小児外科、小児心血管外科 がんセンター : 消化器外科(食道・胃・大腸・肝胆膵)、呼吸器外科、乳腺甲状腺外科 循環器呼吸器病センター: 呼吸器外科、心・血管外科 3 学会活動や論文作成について積極的に行い、専門医取得を目指す。 						
3 年 目 到 達 目 標	<p style="text-align: center;">同 上</p>						

<p>全年次を通して</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 入院患者5－6名の担当医となり、指導医とともに診断・手術適応・手術手技・術後管理などを習得する。 2 患者および家族との良好な人間関係を構築する。 3 医学の進歩にあわせた生涯学習を行うための方略の基本を習得する。 4 外科専門医資格取得を目指す。 5 外科専門医取得後のサブスペシャリティの専門医資格の取得の基礎を習得する。 6 各領域の手術を術者または助手として経験する。(括弧内の数字は最低症例数) <ol style="list-style-type: none"> ① 消化器および腹部内臓(50例) ② 乳腺(10例) ③ 呼吸器(10例) ④ 心臓・大血管(10例) ⑤ 末梢血管(頭蓋内血管を除く) (10例) ⑥ 頭頸部・体表・内分泌外科 (10例) ⑦ 小児外科(10例) ⑧ 外傷(多発外傷を含む)(10例)
<p>指導体制</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本癌治療学会臨床試験登録医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、乳房撮影読影医 2 入院患者5－6名の担当医となり、指導医とともに診断・手術適応・手術手技・周術期管理などを習得する。
<p>研修内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 入院受け持ち患者の診療(毎日) 2 診療録の記載、退院患者のサマリーの記載 3 外来診療(週1回) 4 消化管造影(毎週火曜日・木曜日) 5 消化管内視鏡(毎週火曜日・木曜日) 6 マンモグラフィ読影(毎週金曜日) 7 内科・外科合同カンファランス(毎週水曜日) 8 手術症例カンファランス(毎週水曜日) 9 病棟カンファランス(毎週火曜日) 10 当直業務(月2－3回) 11 CPC(年4回) 12 足柄上医師会症例検討会(年4回) 13 その他各種研究会への参加、発表
<p>研修評価方法</p>	<p>目標達成度をチェックし、指導医による評価を受け、適宜研修スケジュールを調整し、外科専門医の取得に努める。</p>